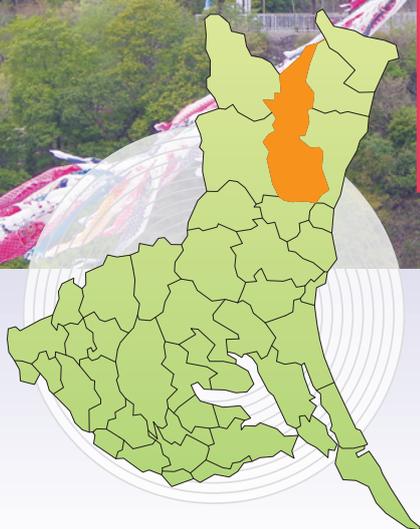


第9回 支店長のわがまち紹介

茨城県 常陸太田市

子育て上手 常陸太田

竜神大吊橋 (写真提供 常陸太田市)



茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第9回目は常陸太田市です。筑波銀行は、平成25年12月に“地域復興支援プロジェクト『あゆみ』”のもと、常陸太田市、常陸太田市商工会、常陸太田市観光物産協会、JTB関東と「常陸太田市の地域振興に関する協定書」を締結し、少子化・人口減少対策や、地域経済の活性化に資する取組みを共に協力して実施しています。

太田支店長の荒川誠が、常陸太田市長 大久保太一氏、総務部長兼政策企部長 佐藤啓氏、政策企画部企画課長 西野千里氏にお話を伺いました。

●常陸太田市が自慢に感じることは何ですか。

■本州一の長さを誇る竜神大吊橋

常陸太田市の北部に位置し、茨城百景の一つにも挙げられている美しいV字形の溪谷・竜神峡に掛かる「竜神大吊橋」は長さ375mで、歩行者専用の吊橋としては本州一の長さを誇ります。この竜神峡と竜神大吊橋の存在感あふれる景観は、新緑や紅葉の名所として、毎年20万人を超える観光客を魅了する人気スポットとなっています。本年3月からは、新たに高さ最大100m、シーズン常設開催サイトとしては日本最大級の「竜神大吊橋バンジージャンプ」施設が開設されました。

■関東最大級の面積を有する里美牧場

里美牧場は、敷地面積520haを誇る関東最大級の牧場で、高原の爽やかなロケーションと放牧された乳牛の姿がのどかな雰囲気を醸し出しています。牧場内の「プラトーさとみ」は、宿泊施設などを完備したレジャー施設となっており、ひときわ目を引く7基の風力発電用の風車、オリジナルの木工品作りに挑戦できる木工体験室など、大自然を活かした施設で思い思いに楽しむことができます。牧場ならではの肉料理、ヨーグルトやジェラートなどの乳製品もおすすめです。

■「常陸秋そば」の発祥の地

常陸太田市は、山地特有の昼夜の気温差が大きい気候と傾斜地に拓いた畑の土壌を生かした良質なそばの産地です。独特の香りや風味、甘味に優れた金砂郷在来種の交配によって生まれた「常陸秋そば」は、県の推奨品種として採用され、県内で広く栽培されています。名人と称されるそば職人からも高い評価を得ており、市内にも「常陸秋そば」を使用したそば店が多数あります。

■歴史と文化に逢えるまち

常陸太田市は、多くの遺跡や古墳群が見られるように、縄文・弥生の時代からこの地域の中心地として栄え、平安時代末期から約470年間は、奥七郡など県北地方一帯を支配した常陸の豪族、佐竹氏の本拠地として繁栄しました。江戸時代に入ると、水戸黄門こと徳川光圀公が晩年を過ごした西山荘や水戸徳川家歴代藩主の墓所である瑞龍山、11代藩主昭武公の山荘天竜院などに代表されるように水戸藩領地として発展し、明治時代には郡役所なども設置され、棚倉街道の商業中心都市として繁栄し、市内各所に歴史や文化の足跡をたどることのできる史跡等が数多く残されています。



大久保市長



佐藤部長



西野課長



荒川支店長

●**重点的に取り組んでいる施策をお教えてください。**

常陸太田市は少子化・人口減少が予想を上回る速度で進行しており、合併時60,548人を記録した人口が53,440人（平成26年3月1日現在）にまで減少しています。

そこで、市では、少子化・人口減少対策を最重要課題に位置付けて、企業立地等による雇用の確保や市街地の活性化、居住環境の整備や子育て支援の充実を図るなど、市の将来を担う若者が定住し、安心して子育てができる魅力あるまちづくりを積極的に進めています。

具体的には、企業立地のための奨励・優遇制度を創設・活用して、市内の工業団地等へ企業を誘致し、雇用の確保を図るとともに、「子育て上手常陸太田」を市のブランドイメージに掲げ、新婚家庭家賃助成や住宅取得促進助成などの定住・移住対策、結婚相談センターの運営、中学生までの医療費助成、第3子以降の保育料無料化などさまざまな施策を進めています。

また、市民ボランティア88名により結成された「子育て上手 常陸太田推進隊」（隊長：市長）の皆さんや、案内キャラクター「じょうづるさん」（子育て上手常陸太田推進隊宣伝部長）が、市の取組みのPR・プロモーション活動を積極的に推進しています。

●**筑波銀行と地域振興に関する協定書を締結しました。協定への期待等をお聞かせください。**

平成25年12月の協定締結後、筑波銀行太田支店



大久保市長とじょうづるさん

限定の「常陸太田市住宅取得促進ローン」、「ローン金利割引制度」、「子育て応援定期預金」が平成26年2月より取扱い開始となりました。協定に基づくこれらの取組みは、新婚家庭家賃助成や住宅取得促進助成などの制度利用者

を継続的に応援することとなり、若者世代のさらなる定住促進につながるものと期待しています。

また、平成26年4月より観光物産協会を一般社団法人化し、観光振興体制を強化しました。協定締結者の協力により、平成26年度に発刊を予定している観光情報誌「るるぶ」は、専門的なノウハウにより市の観光や物産品の魅力をこれまで以上に内外に発信し、本市の認知度を向上させ、交流人口拡大を図るための新たなツールになるものと大いに期待しています。

●**今後の展望をお聞かせください。**

東日本大震災から3年余りの歳月が経過し、復旧事業はほぼ完了しましたが、原発事故による風評被害等により減少した観光客などの入込客数がまだ回復していません。市内の宿泊型体験施設や研修施設におけるそば打ちなどの体験メニューの提供、体育施設におけるスポーツ合宿、農家の家庭に宿泊する民泊体験による教育旅行など、市の資源を活用するさまざまなタイプの旅行や合宿の誘致を推進し、交流人口の拡大を図ります。また、9名の地域おこし協力隊員が都市部から市内に移住し、地域資源の発掘やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を利用した情報発信、交流人口拡大などの取組みを行っており、アートの視点なども取り入れながら、活動内容の充実を図ります。

震災の影響でこれまで足踏みしていた複合型交流拠点施設（道の駅）の整備を、平成28年度オープンを目指して推進します。「農林畜産業の振興」や「販路拡大」、「交流人口拡大」をめざし、防災機能も有する交流拠点施設として、直売所・情報物産館、レストラン・フードコート、加工所、体験ほ場などを整備します。

また、常陸太田市は平成26年12月1日に合併10周年を迎えます。10年の歩みを市民とともに振り返り、将来に向かって「夢」と「希望」にあふれ、更なる「飛躍」につながる契機とするため、「合併10周年記念事業」を実施します。